

令和 6 年度 県立水戸高等特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像 ◆グランドデザイン 2024 スローガン 大空に夢を描こう！ 「ありがとう」が循環する Well-being な学校					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況	
・教育課程や校則の見直しを行い、社会に開かれた時代に合った学びや生徒主体の学びの推進を図ることができた。 ・タブレットの整備、普及が進み、学習場面で活用する場面が増えてきた。授業全体を通して、ICTを活用した授業づくりが求められる。 ・老朽化した建物、設備の計画的な整備が進められた。建物等の保全とともに新しい設備等の整備も必要となっている。		1 地域とともにある学校づくりの推進と DX 化に努める。【地域連携強化プロジェクト】	①コミュニティ・スクール設置に向けた準備を進める。 ②地域と学校の Win-Win の関係づくりを維持する。 ③情報発信による理解啓発の推進を図る。	A	
		2 学び方改革プロジェクトの推進と DX 化に努める。【魅力ある教育の推進】	①学び方 3×DX デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る。 ②生徒の「？」から始まる、生徒が主語の探究的な学習スタイルへの授業改善を進める。 ③寄宿舎の在り方を見直し、寄宿舎の魅力度アップを図る。	A	
		3 命を守る防災教育の推進と DX 化に努める。【安心・安全】	①安全で、安心して学べる教育環境の整備と心理的安全性の向上を図る。 ②体験型防災教育を推進する。 ③一人一人に応じた生徒支援によるセルフメディケーションを推進する。	B	
		4 働き方改革の推進 DX 化に努める。	①教職員の働き方改革とチーム力の向上の推進を図る。 ②定期点検をとおして、働きやすい環境の整備と充実を図る。	B	
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・業務のDX化	・オンライン会議や資料のペーパーレス化を推進し、データ化できるものはデータ化して共有化する。 ・教育情報をデジタル化し、クラウド環境を活用したデータの共有や、教員間の情報共有に活用して業務の削減と効率化を図る。	1-② 2-① 3-①③ 4-②	A	○職員会議や各研修など ●使用機器の整備 ◇クラウド環境の整備と活用事例の整理と検討
教職員の 育成及び 指導・監督	・時代に対応できる指導力の育成	・学校のDX化を推進し、実際に校務や学習指導にICT機器を活用したり教員間で研修したりすることで、教員のICT活用指導力の向上を図る。 ・生成AIやchatGPT、ドローン、e-sports、アバターやメタバースなど、教職員自身が新しい学びに取り組む機会を創出し、時代の変化に対応した学び続ける教職員の育成を図る。	1-①②③ 2-①②③ 3-①③ 4-①②	A	○ICTを活用し、校務や学習活動でDX化を進めることができた ●流行で終わらせず、持続可能な取り組みにする ◇時代に応じた学びについては、各教科等で計画的に取り組む
対外活動	・地域との連携強化	・先進校視察や実践事例を基に情報を収集し計画立案する。 ・地域の実態や生徒・保護者のニーズを把握し、相互理解が深まるよう努める。	1-①②③ 2-①③ 3-①②③	B	○先進校の取り組みを基に計画立案できた ●生徒や保

		生徒が主体となり本校の特色や地域との繋がりが伝えられるような方法やツールを研究する。			護者のニーズを把握する手立ての工夫 ◇生徒が主体的に活動に取り組む活動の研究をする
コンプライアンス確保	不祥事案の発生ゼロ	- 職員への定期的な熟議による意識の徹底と「ありがとうを伝えよう」プロジェクトを実践する。 - クリアデスク、クリアスクリーンによる情報管理とWチェックの徹底を図る。	3-① 4-①②	A	○不祥事ゼロ ●職員意識の継続 ◇意識を高め保持するための研修やプロジェクトの実施
働き方改革	職場環境の改善	- 職員へのメンタルヘルスケア等の研修の充実を図る。 - 働き方サポートカードを活用した業務改善を進める。	3-① 4-①②	B	○職員からの声を拾い、働きやすい環境に努めることができた ●メンタルヘルスケアの研修を行ったが、日常の校務に取り入れる工夫が足りなかった ◇次年度は、職員への投げかけを増やしていきたい
I C T活用	I C T環境の整備	- 各教科における情報活用能力の育成につなげるため、生徒一人一人の特性や能力に応じた I C T学習環境を整備する。 - GoogleWorkspace 等を活用した教育D X化の推進を図る。	1-③ 2-①②③	B	○生徒の実態に応じて機器やアプリケーションを活用し、生徒の情報活用能力の育成に努めた ○GoogleWorkspace やロイロノートスクール等を使い、教材のデジタル化や、オンライン上での協働学習を行った ●アナログからデジタルへの置き換えだけでなく、生徒の協働的・創造的な学習に向けて、より効果的な I C T の活動方法を検討していきたい ◇GoogleWorkspace やロイロノートスクール等の継続的な使用及び、活用方法や実践例の伝達・研修を行う

学習指導	・学びのD X化	・DQ ワールドを活用し、学校生活や寄宿舎生活で实际的に I C T機器を使って学ぶデジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。 ・生徒の主体性、I C T活用、自立活動との関連、社会コネクト、個別最適化を柱とした授業改善を推進する。	1-②③ 2-①②③ 3-①②③	A	○DQ ワールドを活用し、デジタル社会で主体的な行動や判断ができるための学習に取り組むことができた ○5つの柱を立てて視点を明確化したことで、効果的な授業改善につながった ●I C T機器の活用において生徒間のトラブルが多い ●授業改善については、持続可能な取り組みになるようにする ◇デジタル・シティズンシップ教育は、実際場面で継続的に指導する ◇社会とのつながりをさらに強化した学習活動を推進する。I C Tを活用し、生徒が主語になるような授業作りをさらに進める
------	----------	--	------------------------	---	---

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない